

# 韓国における日本語教育の現状と展望

韓国・祥明大学校日本語教育科教授  
金淑子

韓国の大学における外国語教育は、1946年にソウル大学校に英語英文学科、独語独文学科、仏語仏文学科が、1954年には韓国外国語大学に英語科、独語科、仏語科、中国語科開設されることで始まった。日本語は1961年に韓国外国語大学の日本語科開設で始まった。現在は全国の77の4年制大学(82学科)で日本語教育が実施されている。以下で大学の日本語関連学科の教育の現況と学習者・教材のほか、いくつかの問題点を整理し、今後の展望について話したい。

なお、引用した資料は、韓国日語日文学会：日本語教育実態調査(1981、1985、1994、1999)、韓国日語教育学会学術シンポジウム：「韓国の日本語教育はこう変わる」(1996.6)、および筆者の論文である。

## 1. 日本語の教育目標

韓国大学教育協議会(1991)が提示した日語日文関連学科の教育目標は、

- (1) 日本語(学)と日本文学、それに日本の歴史と文化についての知識習得を通して、教養と知性を備えた人間の育成、
- (2) 日本語(学)と日本文学、それに日本の歴史と文化についての専門知識を備えた人材の養成

であると明示している。

1994年：123大学 (全国大学数 142)

1999年：84大学の102学科 (全国大学数 187)

## 2. 日本語教育機関

### 2-1. 大学の専攻学科数とその変化

1981年	85年	87年	88年	89年	90年	91年	92年	93年	2001年
37,	49,	50,	52,	53,	55,	59,	61,	64,	82

1978年に創設された韓国日語日文学会が4回にわたって日本語教育の実態と現況を調査したことがある。本発表は1981年、85年、94年、98年のデータを中心とする。

1981年には51大学(専攻学科 33)、1985年には60大学、1994年には110大学(全体数138)が日本語教育実施、専攻学科が開設された大学は61。

### 2-2. 専攻学科の名称と変化

1965～85年：

1970年代：日語日文学科、日語教育科

1980年代：日語日文学科 26校(65%)、日語教育科 6校(15%)、日語学科、日語科、観光日語科、亜州語科

2000年：日語日文学科 5校、外国語教育科 1校、日本語科 4校、日本学科 1校、その他 学部制

表1 全国の日本語関連学科

#### 学部

国際観光通商学部(2) 加耶大、大仏大

語文学部(46) 建陽大、宇石大、京畿大、威徳大、慶尚大、麟蹄大、慶州大、仁川大、啓明大、全北大、高麗大、全州大、関東大、済州大、光雲大、昌原大、光州大、天安大、群山大、清州大、極東大、忠南大、南ソウル大、檀国大、ハンパツ大、檀国大(天安)、漢陽大(安山)、大田大、大邱大、徳成女大、同徳女大、東西大、湖南大、嶺東大、嶺南大、東義大、新羅大、木浦大、順天大、釜京大、水原大、祥明大(天安)、ソウル女大、聖潔大、世明大

国際地域学部(9) 慶熙大、大邱カトリック大、大進大、東亜大、培材大、麗水大、栄山大、平澤大、翰林大

日語日文学科(11) 慶北大、璟園大、東国大、東国大(慶州)、明知大、釜山大、誠信女大、世宗大、全南大、中央大、漢南大

日語教育科(2) 建国大、祥明大

日本学科(5) 江陵大、鮮文大、聖公会大、淑明女大、漢西大

日本語科(7) 釜山外大、西京大、蔚山大、朝鮮大、中央大(安城)、韓国外大、韓国外大(龍仁)

#### 2 - 3 . 学部制への学科統合の現況

1995年5月30日に政府が発表した教育改革案で学部制が推進され、学科統合の現象が現れ始めた。日本語と関連した学部の名称は次のとおりである。

(1) 語文学部(外国語文学部、言語文学部、観光外国語学部、英日語文学群、東洋語文学部、人文系列学部)

(2) 国際地域学部(東アジア語学科群、東洋学部)

(3) 国際観光通商学部(国際学部、中国・日本学部、ロシア・日本・中国学部)

2001年10月現在：77大学、82学科。すなわち日本語関連学科の94%が学科から学部制に転換したことがわかる。

#### 学部制の特徴

複数専攻制

最低単位認定制

韓国の大学では、卒業に必要な最低単位を 140 単位に設定している。そのうち、専攻単位は従来 70 単位であったが、複数専攻制度が導入されることにより、専攻単位は 30 ~ 36 単位に下向調整された。学部制の実施にともない、専攻単位が減り、専攻教育の水準が質的に低下して、専攻の教科目の内容が専門知識の研究よりは、教養中心の平易で興味を誘うことのできる科目に変わっている。

大学院中心の専門教育

### 3. 学習者と教員の数

#### 3 - 1 . 学習者数

1994 年 12 月現在 : 11,069 名  
 1995 年 : 3,206 名

#### 3 - 2 . 教員数

表 2 教員数 (1994 年)

役 職	教員数	役 職	教員数
専任講師	56	時間講師	410
助教授	84	待遇専任	4
副教授	104	客員教授	11
教授	53	名誉教授	1

すなわち、常勤教員が 297 名で、非常勤教員の数 は 426 名である。

### 4. 教科の運営

韓国大学教育協議会の『日語日文関連学科教育プログラム開発研究 (1991.12)』という報告書では、日本語関連の専攻学科のモデル教科課程として、次のように提案したことがある。

- 熟練科目分野 : 日講読 ・ 、日会話 ・ 、日言語実習 ・ 、日作文 ・ 、時事日語、漢文講読、
- 日語学分野科目 : 日本語文法 ・ 、日語学概説、日本語音声・音韻論、日本語古典文法、日本語語彙論、日本語史、日語学研究入門、日本語意味論、韓日両国語対照研究、日語学特講
- 日文学分野科目 : 日本古典文学史、日本近代文学史、日本文学概論、日小説講読、日本詩歌演習、日本近代文学演習 ・ 、日本古典文学演習 ・
- 日本学分野科目 : 日本文化史 (日本文化論) 韓日関係史、日本思想史
- 日本語教育分野科目 : 日本語教育理論、日本語教授法、日本語教材研究、教育実習、日語指導演習

一方、筆者が 2001 年 1 学期と 2 学期の講座開設の現況を調査したところ、日本語熟練科目分野が 26 ~ 56 % を占めており、次いで日文学関連の教科目が日語日文学系列 25.4 %、日語教育科 16.1 %、日本学科 2 % であることがわかった。

#### 4 - 1 . 日本文学教育

韓国日文学会(1973 年創立)で年 2 回(夏季・冬季)開催される定期学術大会の 1998 年から 2000 年までの 6 回分の研究発表者の発表内容を分野別に分析すると、日本文学の研究発表が 35.7 % を占めていることがわかる。

#### 4 - 2 . 日本語学教育

表 3 日本語学教育の現況

日本語文系列	日本語科系列	日語教育科
12.7%	13.0%	16.1%

(筆者の調査による)

一方、韓国日本語学会の発表内容は 33.5 % で、韓国の日本研究者たちの研究の傾向が現在では日本語学と日本文学理論に集中しているといえる。

#### 4 - 2 . 日本文化教育

##### 4 - 3 - 1 . 日本事情講座

「日本事情」とは日本に関するあらゆる情報をさし、日本では 1962 年以来、外国人に対する日本語教育の内容として共時文化の内容、すなわち日本事情一般、文化、政治、経済、自然、科学技術に関することを盛り込んでいる。その水準は初歩的な内容よりは大学教育の水準にふさわしい内容を目標としている。わが国では、現在 23 校で「日本事情」、「現代日本事情」、「日事情」、「日本事情論」、「日本事情セミナー」、「日本事情概説」、「インターネット日本事情」などの講座が専攻または教養科目として解説されており、韓国語で講座が進められる場合が多い。

##### 4 - 4 - 2 . 日本文化講座

政府の 3 次にわたる大幅な日本文化開放政策と大学の学部制への変換とそれともなう教養科目の増加傾向に力を与えて、非専攻者の受講生たちの日本文化関連科目に対する関心が急増している。講座名はきわめて多様で、「日本文化の理解」(9 校)、「韓日関係論/韓日比較文化論」(6 校)、「日本大衆文化論」(5 校)、「日本の伝統文化/日本社会文化論/日本社会研究/東アジア比較文化論」(4 校)、「日本社会文化/日本社会論/日本生活文化の理解/映像日本生活文化」(3 校)、「日韓文化交流探訪/インターネット日本探訪/現代日本文化の理解」(2 校)などがあり、そのほかにも多様な文化関連講座が 89 校に開設されている。その特徴は総論よりは各論で、教材も視聴覚教材とインターネットを通じた授業方式などが好評である。

## 5. 教科書

筆者は1975年に韓国の大学で使用されていた教科書を調査したことがあり、その後、10年が経過した1985年に再び調査・分析した。そのうち、80冊は初級の講読教科書であり、ほかに文法の教科書が10種と作文の教科書が少数あった。

年代別に教科書の状況を整理すると、以下のようになる。

- ・1960年代：日本の教科書を導入し、模倣・編集して大学の日本語関連の専攻学科で使用した。
- ・1970年代：筆者の調査では、市販されている50種の日本語教科書を対象に分析した結果、その大部分が講読の教材、初級教材に偏っていた。
- ・1980年代：1985年に100種類の教材を分析した結果、大学の「教養日本語」、「大学日本語」などの名称で開発された教材のうち、80種が日本語講読で、文法と会話の教科書が10種、作文とペン習字が少数であった。これらを使用している機関の数によって分析すると、表4のとおりである。

表4 教科書の使用状況(1985)

採択校数	1	2	3	4	5	6	7	8	計
冊数	58	10	4	2	2	2	1	1	80

表4からわかるように、各大学が大学の日本語教科書を開発・使用しており、他大学では同じものを使用していなかった。しかし、58校で採択していた教科書は朴成媛著『標準日本語教本』であった。すなわち、この当時は教科書開発の能力がないか、開発の条件が整っていなかったようである。また、初級教材が大部分を占めていた。

- ・1990年代：日本語の学習者の増加とともに、出版社が日本の著名な教科書を輸入し、ライセンス版として出版したものが普及し始めた。これにともない、大学の教養日本語も、日本人の著者の教科書に変わるようになった(例：『日本語初歩』、『文化日本語』、『新日本語の基礎』)。

## 6. 展望

IMF以降、現在は全体的な出版社の不況にもかかわらず、日本語関連の書籍は相変わらず増加している。これは社会人たちの日本語学習が増加しつつあることと関連があるといえる。教科書は会話、講読、作文などの分野別教科書から、統合型教科書に変わりつつある。

日本語専攻者に対する社会的な認知度が向上している。1980年初期まででも、日本語専攻の学生たちは自分の教科書の表紙を内側にして持ち歩くほどであった。現在は政府の日本文化開放とともに、他の学問と同じ程度にまで認識が変わった。わが大学には8つの学部と師範大学があり、学科の数は40であるが、日本語教育科の就職率は最も高いといえることができる。

日本語教育における文化講座に対する呼応度が高まっている。各大学で純粋文学や純粋語学など、学問の基礎科学に関する講座は減少し、教養講座が増加している背景に力をえて、日本文化

と日本社会についての情報を得ようとする学習者が増えている。

21 世紀の韓国の教育環境の変化を語るとき、教育政策の変化、教育メディアの変化、学習者の変化を挙げるができる。すなわち、インターネットを通じて情報検索能力を育てようということが韓国の教育部の学習指導要領に表れている。学習者もパーソナルコンピュータを持っているし、学校の次元でも施設を増やそうとしているので、インターネットを通じた新たな形態の教育が形成されている。本学でもサイバー講義が実施されている。

1990 年代の初期までをみても、大学生たちは 1 学年に入学すれば、1 学期も休まずに受講するのが主な傾向であった。しかし、現在は各大学の各学年にわたって休学者が増えている。休学の原因を分析してみると、「経済的困難」、「職場経験を得るため」、「語学研修のため」などと多様であるが、短期留学に行くというケースも目立つ。

日本の文部省資料によると、日本の留学生の変化の動向としては、日本政府の国費留学生、学部留学生、各国の派遣留学生、就学生などの短期留学生は増加しており、私費留学生、大学院などの長期留学生は減少している。現在、大学生たちは就職難で、社会に進出するために有利な条件を身に付けることを望んでいる。したがって、日本や中国、アメリカなどの現地に行って語学力をつけるために休学を選ぶのである。